

「心肺蘇生におけるカプノメーターの有用性に関する 後ろ向き観察研究」 医学情報の研究利用について

呼気終末二酸化炭素分圧 (ETCO₂) は、心臓が拍出する血液量や肺の血流量を反映するとされ、気管内にチューブを挿入した心停止の患者さんにおいて、カプノメーターを用いて ETCO₂ を測定した場合、その値は自己心拍再開や元気に退院することが可能な患者さんを予測する因子となりうる有用なものであることが過去の研究で示されています。一方、気管内にチューブを入れず、救急隊が手動的に換気をおこなうことが多い本邦の病院前救護体制において、ETCO₂ 値が同様に有用であるかどうかは不明です。今回、当院の救命診療科（大阪府救命救急センター）が中心となり、これを明らかにするための共同研究を行う事となりました。調査対象となるのは、2018年6月18日から2020年3月31日に岸和田市内で発生した院外心停止の患者さんです。

調査項目は、年齢、性別など患者さんの情報の他に、心電図波形や ETCO₂ 値です。これらのデータにおいて、全ての患者さんは匿名化され、お名前や住所など、個人を特定するプライバシーに関する情報が外部に漏れる事は無く、また、何らかの負担が生じる事も一切ございません。収集したデータは、大阪府泉州救命救急センター、および共同研究機関である岸和田市消防本部、日本光電工業株式会社において解析致します。また、研究責任者は、研究に用いられる情報等を適切に保管し、廃棄する際は、匿名化し個人情報に注意して処理いたします。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告させていただく可能性があります。

本研究の調査対象の患者様で、調査に同意されない方はお申し出ください。

このお知らせは2018年6月18日より2020年3月31日まで、りんくう総合医療センターHP内に提示します。

この件に関しまして、ご質問などございましたら、下記の研究責任者に遠慮無く、お訪ねください。

りんくう総合医療センター・大阪府泉州救命救急センター 所長 中尾彰太
電話番号：072-469-3111